

国語科学習指導案

指導者 東希望が丘小学校 松村 祐希

- 1 日時 平成27年1月28日(水) 5校時
- 2 学年・組 第4学年2組 36名
- 3 単元名 「4年2組の詩のアンソロジーを編もう～好きな詩のよさをクラスのみんなに伝えよう～」
- 教材名 「詩を楽しもう のはらうた」

4 指導事項と言語活動

(1) 指導事項

○声に出して読みながら内容や情景を想像し、自分の思いと合わせながらよく分かるように音読すること。 (「読むこと」ア)

○詩を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしながら読むこと。 (「読むこと」ウ)

(2) 言語活動

『自分も野原の住人になって、4年2組の詩のアンソロジーを編もう』

本単元で取り上げた「野原の住人」は、植物、昆虫、動物、自然と様々であり、詩のもつ雰囲気ものんびりしたものから元気なもの、しみじみしたものまで多様である。そのため、一人ひとりが自分の好きな詩を見つけやすく、「僕は、——。」「私は、——。」と、感じたことを伝え合うことができると考え、それを思考する態度と意識が育つように本言語活動を設定した。

本教材を設定した理由は、「のはらうた」シリーズは、詩人が野原に暮らす様々な人物を思い浮かべ、そのものになりきって作った詩が収められており、詩の世界を楽しんだり詩を創作したりする活動に繋げやすいと考えたからである。詩人なりにとらえられたそのものの属性が、まず、「いけしずこ」「きりかぶさくぞう」のような名前(作者名)に表れ、そして、その人物が作った詩に表れる。リズムがよく、しっかりと連に分かれているものもあれば、つぶやきのような一言で終わるものもあり、児童は、様々な詩の世界を楽しむことができる。そういった詩を、ただ読むのではなく、その情景に合わせてどのように工夫して読めばいいのかを児童自らが考えながら音読していくことができるようにしたい。そのために、アンソロジーを編むという目標を設定することで、児童の意欲を高めていくことができると考えた。アンソロジーとは、一つのテーマに基づいていろいろな作品を集めたもので、選集、名詞集、名文集、詞華集のことをいう。音読したものを録音し、一枚のCDに保存するというアンソロジーを作り上げる活動を目標に設定することで、上手に音読するための工夫を児童自らが考えていくことができる。また、グループの中でお互いに練習を聞き合うことで、アドバイスや感想を伝え合うとともに、自分がその詩を選んだ理由や詩への思い、どんな読み方をしたいかを説明できるようになると考える。評価達

成のための手立てとして、掲示物や学習カード、ICT 機器を活用することで、具体的な音読の工夫を考えたり、感想やアドバイスを述べたりしやすくなる。次单元「野原の仲間になって」でも行うように、「自分も野原の住人になって」という条件のもと、詩を創作する活動に繋げやすい。さらに、活動を通して児童は様々な詩に出会う。これらの詩を楽しみ、人それぞれに、好きな詩や心に留まった言葉、詩のとらえ方が違うことをあらためて感じさせ、お互いの感性を認め合わせるようにしたい。高学年へと近づき、それぞれの経験や知識が増加し、個性もますます豊かになってゆき、「人と違うこと」が気になる児童も増えてくる。詩の学習を通して、感じ方、とらえ方が様々にあることを感じ取らせたい。

5 単元目標

- 自分の感想を述べたり一人ひとりの感じ方の違いに気付いたりすることができる。
- 好きな詩を見付けながら、楽しんで「のはらうた」の詩集を読むことができる。
- 詩を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしながら、自分の思いと合わせながらよく分かるように音読することができる。
- ・詩に込めた思いを思い浮かべたり、詩のリズムから国語の美しい響きを感じ取ったりしながら音読や暗唱をしたりしている。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 自分の感想を述べたり感じ方の違いに気付いたり、好きな詩を見付けたりしながら、楽しんで詩集を読もうとしている。	② 詩集を読んで思ったことや感じたことを述べ合うために、詩集に収められた詩を選んで読んでいる。 ③ 詩を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしながら読んでいる。 ④ 声に出して読みながら詩の内容や情景を想像し、自分の思いと合わせながらよく分かるように音読している。 ⑤ 一人ひとりの感じ方の違いに気付いている。	⑥ 詩に込めた思いを思い浮かべたり、詩のリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読や暗唱をしたりしている。

7 単元について

(1) 児童の実態

4年生の児童は、「春のうた」「忘れもの」「ぼくは川」などの学習を通して、比喻、擬人法、繰り返しなどの詩の技法に触れてきている。詩のリズムにも親しみ、声に出して読み、児童自ら暗唱しようとするなど楽しんで取り組むことができた。本文をノートに書き写し、自分の感じた情景を絵に表す活動も行っている。物語や詩を読んで感想やその内容のよさを述べ合う活動についても、これまでの文学教材でも繰り返し行っている。「三つのお願い」では、主人公と自分を比べて似ている体

験や似ている性格などを自分の言葉で感想の交流をしている。

しかし、日常生活の中で、児童全員が詩の楽しみ方について意識しておらず、詩というものに触れることが日常の中で少ないように感じる。そこで、これまでの手立てとして、授業で取り扱った物語や詩などを音読の宿題にしていた。毎回課題をこなしてくる児童がほとんどだが、そうではないと自主的に詩などの音読活動に取り組む児童は少ない。また、音読カードには、「間を空ける」「強弱をつける」などの項目があるのだが、音読カードに「◎」がついていても、実際に授業内で音読させるとその成果が現れていない。読み方に抑揚をつけたり身振り手振りをつけたりして工夫して音読活動に取り組む児童もあまり見られない。表現することに抵抗があったり、表現の仕方を知らなかったりする児童が多いと考えた。教師が詩を紹介することもあったが、興味をもってくれる児童もあまりいなかった。新聞に載っている詩を読んだり詩集を持っていたりする児童もいるが、友達に好きな詩を紹介するなど生活の中において詩の楽しさを共有する機会が少なく、積極的に触れることができていない。

そこで、それぞれの野原の情景を想像しながら音読の工夫を考えていくことで、「のはらうた」の世界に入り込めるようにしたい。好きな詩を選んで友達同士で音読練習することで、一人ひとりの感じ方や表現の仕方の違いがあることに気づかせていきたい。そのため、ICT 機器を活用したアンソロジーを編む活動を行う。以前、IC レコーダーを用いて音読発表のための練習を行ったことがあるので、機器の操作や使用する目的などは児童も理解している。音読の練習を積み重ねてきたことを録音し、記録媒体に残すことで、それぞれが思い描く詩の世界に触れることができる。それを聞いている児童も、その情景を具体的かつ容易に想像できる。そこから、詩を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしながら読んでいる様子や、自分の思いと合わせながらよく分かるように音読している様子から詩のよさや互いの感性のよさに気づかせていきたい。

(2) 単元について

本単元は、「読むこと」の領域の指導内容を取り上げた単元である。詩をどのように読むかという指導としては、「読むこと」領域の「情景を想像しながら読む」ことを軸にしながら、読んで考えたことを発表し、一人ひとりの感じ方の違いに気づかせることをねらっている。本単元では、それらの指導が行いやすいよう詩が六編選ばれている。本単元の中心的な指導内容は、「野原の住人の性格や思いを想像する」「好きな詩を発表し合い、一人ひとりの感じ方の違いに気づく」「想像したり感じたりしたことを交流する」の3つである。

なお、次単元には、自分で「のはらうた」を書くという活動が設定されている。本単元で児童の興味・関心を高め、それぞれの詩のどのようなところが楽しいかを考えさせることで、次単元での創作活動に繋げていくことができる。

8 研究主題

より身近で手軽に誰でも使用できる情報機器活用について ～ TV・OHC などの活用を通して ～

(1) 研究テーマとの関わり

本単元の「詩を楽しもう」という題材を通して、児童の表現する力や他者との相似点・相違点への気づき、そして何より詩のよさに気づき自ら楽しんで詩と触れ合おうとする態度を育てていきたい。そのため、詩のリズムを楽しみ、読む力をのばすために、IC レコーダーを使用し、練習の様子を自分でも客観的に確認するための手段として活用していく。音質は良くないのだが、自分の課題を振り返るために使用するには有効だと考えた。レコーダーは、音質もよく、音量も教室内で聞くには最適であるため、クラス全体で共有する場で使用していく。その際に、児童の学習カードを OHC で映し出すことで、どんな工夫をして音読をしたのかが学習カードと録音した声を比較しながらクラス全体、代表で音読した児童本人も確認することができる。最終的には、一枚の CD に児童全員が音読した詩を保存することで、いつでもクラスの友達を選んだ詩を聞くことができ、その詩のよさを友達と共有していくことができる。自分の声を物として残せることで、学習意欲を高めていくことができると考え、本単元でこの機器を使用していく。

(2) 本単元で使用する機器

モニター、OHC、IC レコーダー、レコーダー

9 単元計画（全4時間）

	学習課題及び学習活動	●教師の支援 ◎評価
1	1 範読 CD を聞いて、どの先生が詩を読んでいるのか考える。 ・この声は誰だろう。 ・あ、〇〇先生だ！ 2 範読を聞いて、その詩の面白さを発表する。 ・「ぼくはぼく」という題名が、みんなちがってみんな	教材・教具 教師の範読 CD、詩の拡大掲示物 ◎自分の感想を述べたり感じ方の違いに気付いたり、好きな詩を見付けたりしながら、楽しんで詩集を読もうとしている。(関・意・態①) ◎詩集を読んで思ったことや感じたことを述べ合うために、詩集に収められた詩を選んで読んでいる。(読②) ●教師の声を録音した CD を聞かせ、これからの活動への興味を

	ないいと思いました。 ・ぼくも、からすえいぞうと共感できて面白いと思いました。 3 本時の課題を確認する。 クラスみんなに詩のよさを伝えるために、自分の好きな詩を見つけよう 4 「のはらうた」を音読し、自分の好きな詩を選んで、隣の席の友だちと理由を発表し合う。 ・「おと」の「ぽちゃん ぽちょん」という音の表し方が楽しい。 ・「ひるねのひ」に出てくる「やさしい」や「かげろうが ゆれてるね」という言葉から暖かい春を感じた。 5 4年2組のアンソロジー作りに向けて「のはらうた」の詩集の中から自分の好きな詩を選んで発表する。 ・「はるなつあきふゆ」を選んだのは、季節が変わっていく様子がリスの目線でよく伝わったからです。 ・小さな動物も季節を感じているのだなと思いました。	もたせる。 ●教師が範読した詩について、児童全員でその詩のよさを見つけさせることで、詩の楽しみ方や面白さを共有する。 ●音読をさせることで、情景や住人の気持ちを想像させる。 ●詩と話者の関係について気づくことができるように、詩の文体や語り手の名前に注目させる。 ●隣の席の友だちや小グループで発表し合うことで、互いの感じ方の違いに気づかせる。 ●好きな詩を見つけられない児童には、詩集からあらかじめ教師が選んでいた詩の中から選ぶようにさせる。
2	1 本時の課題を確認する。 4年2組のアンソロジー作りに向けて、読み方の工夫を考えて練習をしよう 2 自分がその詩を選んだ理由を学習カードに書く。何人かに発表してもらおう。 3 音読の工夫について考え、発表する。 ・大きく・小さく・強く・弱く・速く・ゆっくり・高い声・低い声・間の取り方・大事に読みたい言葉・リズムカルに・重い調子で・明るく・暗く	教材・教具 ICレコーダー、学習カード、OHC、モニター、レコーダー ◎詩を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしながら読んでいく。(読③) ●音読するときの工夫について、児童と共有したものを音読練習に活用できるように掲示する。 ●音読記号はクラスで共通のものにし、いつどこでその記号を見

	4 学習カードに音読記号などの音読の工夫を書く。 - 大きく…○○○ - 小さく… . . . - 速く…~~~~~ - ゆっくり…~~~~~ - 強く…===== - 弱く…===== - 間…< - 他の記号は言葉にする 5 自分の選んだ詩を、小グループに分かれて工夫しながら音読練習する。 - 小さな音や優しく読む場面は静かに読む。 - 大きな音や元気な場面は身ぶり手ぶりを加える。 6 全体場で友達の発表を聞いて、感想を発表し合う。 - 音読記号のついているところで、しっかりその通りに読んでいて、詩の盛り上がりができていた。 - 詩と読み方が合っていて、詩の様子が想像できた。	てもどんな意味を表しているのかが一目で分かるようにする。 ●音読記号表を教室に掲示し、いつでも記号の意味を確認できるようにする。 ●IC レコーダーを使うときのルールを確認する。 ・他のグループのためになるべくしゃべらない。 ・アドバイスは小声です。 ・3、2、1のサインで録音を始める。 ・録音する際は、壁に向かって音読し、声をIC レコーダーに集めるようにする。 ●IC レコーダーを使い、自分の思っているような読み方ができているか確認させる。 ●友達の練習を聞いて、自分との相似点や相違点に気づき、学習カードを活用し感想を述べたり、アドバイスしたりさせる。 ●感想を表す言葉をまとめ、具体的に伝えたり、アドバイスしたりできるようにする。 ●OHC とレコーダーを使い、全体場で発表することで、音読の工夫をクラス全体で共有する。そうすることで、音読の様子が自分でも客観的にも分かり、次時の練習にも生かせるようにする。
3 本 時	1 全体場で前回の最後に発表した児童の音読をもう一度聞く。	教材・教具 IC レコーダー、学習カード、OHC、モニター、レコーダー、音読記号の掲示物、IC レコーダーのルール掲示物

	2 本時の課題を確認する。 4 年 2 組のアンソロジー作りに向けて、読み方の工夫を自分で確認しながら練習をしよう 3 自分の選んだ詩を、小グループに分かれて工夫しながら音読練習する。 アドバイスされたことや自分で気づいたことなどを学習カードに書き込む。 4 全体場で友達の発表を聞いて、感想を発表し合う。 ・わたしと同じ詩を選んでいたのに、強弱や間を空けるところが違って、詩のイメージが違って面白かったです。 ・今までの課題を毎回直そうとしていたので、最後の発表はその成果が出ていて良かったです。	◎声に出して読みながら詩の内容や情景を想像し、自分の思いと合わせながらよく分かるように音読している。(読④) ●前回発表した児童の音読を聞くことで、課題を再確認し、本時の練習に生かせるようにする。 ●本録音に向けて、本時の練習のめあてを掲示し、自分の練習をメインにすることを確認する。 ・詩の内容やイメージを想像する。 ・自分の思いと合わせて読む。 ・リズムや声の調子を整える。 ●音読記号の掲示物、IC レコーダーのルール of 掲示物を確認しながら練習する。 ●学習カードを活用し感想を述べたり、アドバイスしたりさせる。 ●IC レコーダーを使い、自分の思っているような読み方ができているか確認させる。 ●どこに気をつけて練習したか全体で共有し、OHC とレコーダーを使い発表することで、音読の工夫をクラス全体で共有する。そうすることで、音読の様子が自分でも客観的にも分かり、次時にも生かせるようにする。
4	1 本時の課題を確認する。 4 年 2 組のアンソロジー作りで、1 人ずつ好きな詩を工夫して音読し、その詩のよさをクラスみんなに伝えよう 2 自分の選んだ詩の音読練習をする。 3 「のはらうた」の音読を録音する。	教材・教具 IC レコーダー、レコーダー、紹介カード ◎一人ひとりの感じ方の違いに気付いている。(読⑤)

	録音している間、詩のよさを紹介カードに書く。 4 録音した CD をいくつか聞き、感想を発表する。 ・同じ詩なのに、読み方がちがって、みんな感じ方が違うのだなと思いました。 ・どうしてその読み方をしたのか気になります。 5 次単元の「のはらうた」を書く活動について触れ、学習の意欲をもつ。	◎詩に込めた思いを思い浮かべたり、詩のリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読や暗唱をしたりしている。(知・理・技⑥) ●紹介カードに選んだ詩のよいところや音読の工夫を書くことで、そのカードを見て工夫などを確認しながら CD を聞くことができるようにする。 ●次單元でも自分の作った「のはらうた」を録音したいと思わせるように、作った詩をどうするかを全体で共有していく。
--	--	---

10 本時の目標

情景を想像したり、読み方の工夫を考えたりして、アンソロジー作りのための詩を読む練習をすることができる。

11 本時展開（3／4時間）

学習課題及び学習活動	●教師の支援 ◎評価
1 全体場で前回の最後に発表した児童の音読をもう一度聞く。 2 本時の課題を確認する。 4年2組のアンソロジー作りに向けて、読み方の工夫を自分で確認しながら練習をしよう	教材・教具 ICレコーダー、学習カード、OHC、モニター、レコーダー、音読記号の掲示物、ICレコーダーのルール掲示物 ◎声に出して読みながら詩の内容や情景を想像し、自分の思いと合わせながらよく分かるように音読している。(読④) ●前回発表した児童の音読を聞くことで、課題を再確認し、本時の練習に生かせるようにする。 ●本録音に向けて、本時の練習のめあてを掲示し、自分の練習をメインにすることを確認する。

3 自分の選んだ詩を、小グループに分かれて工夫しながら音読練習する。 アドバイスされたことや自分で気づいたことなどを学習カードに書き込む。 ・やっぱりここはゆっくり読んだ方が、主人公の気持ちになりにけるな。 ・そこは、間を空けた方が、詩のゆたたりさが伝わるよ。 4 全体の場で友達の発表を聞いて、感想を発表し合う。 ・わたしと同じ詩を選んでいたのに、強弱や間を空けるところが違っていて、詩のイメージが違って面白いと思いました。 ・今までの課題を毎回直そうとしていたので、最後の発表はその成果が出ていて良かったです。	・詩の内容やイメージを想像する。 ・自分の思いと合わせて読む。 ・リズムや声の調子を整える。 ●音読記号の掲示物、IC レコーダーのルールを掲示物を確認しながら練習する。 ●学習カードを活用し感想を述べたり、アドバイスしたりさせる。 ●IC レコーダーを使い、自分の思っているような読み方ができているか確認させる。 ●感想を表す言葉を掲示しておき、具体的に感想を伝えたり、アドバイスしたりできるようにする。 ●教室内を広く使えるように、机と椅子は廊下に出しておく。 ●隣の教室も使うことで、他のグループと練習の声ができるだけ重ならないようにする。 ●どこに気をつけて練習したか全体で共有し、OHC とレコーダーを使い発表することで、音読の工夫をクラス全体で共有する。そうすることで、音読の様子が自分でも客観的に分かり、次時の学習に生かせるようにする。
--	---

1 2 板書計画

感想・アドバイス集 ・ 明るい ・ ほがらか ・ おちやめ ・ ゆかい ・ 温かい ・ おだやか ・ ほのぼの ・ 情熱的 ・ 心がおどる ・ むねがときめく ・ うきうきする ・ クール ・ 暗い ・ 悲しい ・ 切ない	○グループに分かれて練習しよう。 ・ ICレコーダーを使って自分の課題をふりかえろう。 ・ アドバイスをしよう。 ・ 学習カードを活用しよう。	③ リズムや声の調子を整える。 ② 自分の思いと合わせて読む。 詩を選んだ理由を思い出して。 ① 詩の内容やイメージを想像する。 自然と声の調子や表情にあらわれる。	○録音に向けて、自分の課題を考えよう。 ・ まだ声が小さい。 ・ 強弱をつけられない。	4年2組のアンソロジー作りに向けて、読み方の工夫を自分で考えて練習しよう。	1月28日(水) 詩を楽しもう のはらうた
--	--	---	---	--	-------------------------------------

1 3 場の設定 IC レコーダー…● 発表者…◎ 音読練習の向き…→

